

5. 発掘調査および環境整備の概要

(1) 昭和4年～6年の環境整備

安土保勝会が国庫補助を得て大手口・百々橋口・東門口の三か所に徳富蘇峰揮毫による「安土城址」の標石を建立し、史跡の境界を杭を設置した。伝二の丸跡の復旧工事を行い、「伝二の丸跡」の標石を設置し、石垣・石段の修理を行った。百々橋口から黒金門跡までと大手門跡から百間石垣（解体前の現摠見寺境内石垣）までの石段を修理した。

また、県道から伝羽柴秀吉邸跡前にいたる大手道部分が内務省によって買収され、幅4mの道路として整備された。

(2) 昭和15・16年度の発掘調査

安土城跡での最初の学術的な発掘調査であり、滋賀県によって実施された。

対象となったのは天主・本丸跡である。天主・本丸建物の礎石を検出し、金箔瓦をはじめとする遺物が発見された。

(3) 昭和35年～50年の石垣修理

主郭部の石垣の修理と一部の発掘調査が滋賀県により実施された。伝二の丸跡と天主台外面の石垣以外の積み直しが行われ、伝二の丸帯郭より門礎石が検出された。

(4) 平成の発掘調査と環境整備

平成元年度から平成20年度まで、特別史跡安土城跡調査・整備事業が滋賀県教育委員会によって行われた。この事業は特別史跡安土城跡の実体を明らかにし、歴史公園として整備することによってより多くの国民・県民に安土城跡を理解し、実感してもらうことを目的として実施されたものである。

発掘調査は大手道・百々橋口道・搦手道の3本の城内外を結ぶ道と道沿いの郭群、主郭周辺部、安土山南面部を対象として行われた。

大手道の調査では、築城当時のものと考えられる大手道が検出され、そのルートが明らかとなった。特に大手口から直線に延びる登城路は、城内道は屈曲させるものとする従来の城内道に関する常識を大きく変えるものとしてその機能が議論となっている。大手道登り口の東西に位置する伝羽柴秀吉邸跡・伝前田利家邸跡からは建物礎石が検出された。特に伝羽柴秀吉邸跡ではすべての建物構成が明らかにされ、安土城内に存在した城郭建物の具体的な様相を知る手掛かりが得られた。

主郭部の調査では伝二の丸東溜りより火を受けた礎石と、礎石の上に建つ焼け焦げた柱の痕跡や仕切りの壁が発見された。主郭部の炎上の様子を具体的に物語るものとして注目される。また、伝本丸建物の礎石が全て確認され、伝本丸建物の全容が明らかとなった。伝本丸跡の建物は、後に秀吉が御所に建てた清涼殿の平面と類似する建物に復元可能ということである。ただしこの復元案については反対意見も多く、定説となるにはいたっていない。しかし『信長公記』に、「御幸の間」と記された御殿が天主付近にあったことが書かれており、それがこの伝本丸跡で検出さ

れた建物のことと考えられる。安土城伝本丸の建物は、近世城郭に見られる本丸御殿のような城主の生活・政務のスペースとは機能が大きく異なることは間違いない。

南面の調査では大手口から複数の虎口が発見された。東西方向に一直線に延びる石塁上に、大手門跡より東に一つ、西に二つの虎口が発見されたのである。西端の虎口が桁形虎口である以外は平虎口であり、直線上にならんだ3つの平虎口から都城の構造を連想させる。これも一般的な城郭のセオリーからは逸脱する構造であり、直線の手道と合わせ、行幸目的とする解釈がされている。

また、南面の多目的広場からは内堀の石垣が検出された。調査前は貞享4年(1687)作成の「近江国蒲生郡安土古城図(摠見寺蔵)」より、安土山の南面は山裾高石垣の部分まで堀が広がっていると考えられていたが、調査の結果、南面高石垣の南に展開する郭群は築城当時のもので、堀跡はもっと南に位置していたことが明らかとなった。大手口から百々橋口にかけての安土山南面山裾部からは大手西端の虎口から続く石垣が百々橋口へと延びることが確認された。また、その途中に二ヶ処の虎口が発見され、この石垣が安土城の南面を画するものかどうか議論となっている。

調査の成果に基づいて行われた環境整備は、大手道と南面山裾部で実施された。

大手道は主郭部の入り口である黒金門跡まで築城時の石段とルートが復元された。大手道沿いの郭では、伝羽柴秀吉邸跡上段・下段・櫓門跡、伝前田利家邸跡虎口周辺、伝武井夕庵邸跡虎口周辺の整備が行われ、建物の平面表示や石段の復元、石垣の修覆が行われた。

南面山裾部では大手口周辺の石塁と虎口の復元、大手口から百々橋口にかけての石垣と虎口の復元が行われた。

遺構整備以外の施設整備としては、平成21年に安土町により大手正面にあった便所と休憩所が解体撤去され、代わって大手東端に特別史跡安土城跡ガイダンス施設がトイレとあわせて新設された。また、安土山の西麓の町有地に、石垣積みや瓦製作など、安土城の築城に関する技術を習得し、安土城跡の整備に寄与することを目的として匠の里が建てられた。

(5) 山内遺構の分布状況

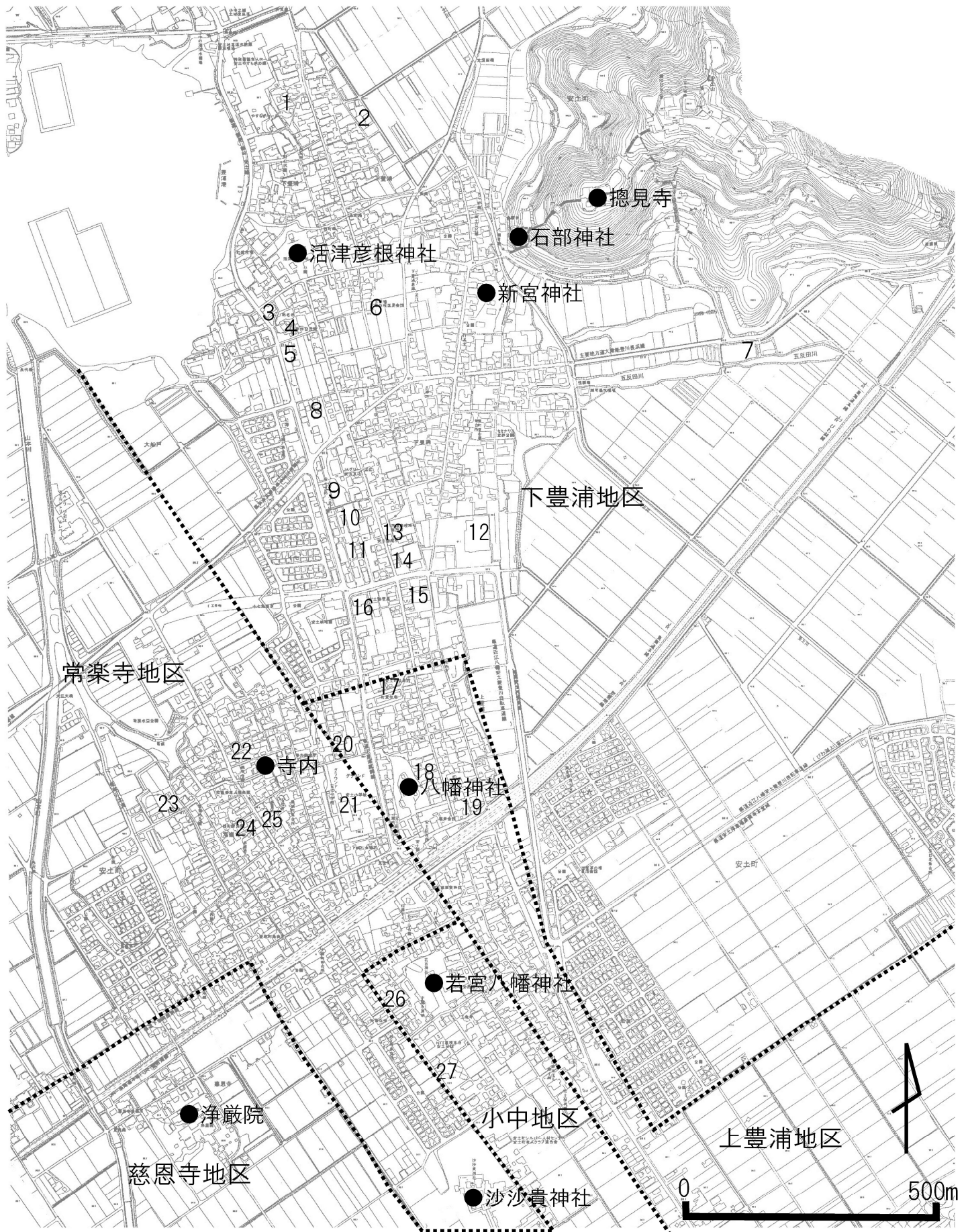
安土山の南半部と南面山裾部については発掘調査が実施されて遺構が検出され、主な遺構が集中して分布している状況が確認された。

安土山の北半部については発掘調査が実施されていないが、現状で郭跡と思われる遺構が階段状に分布している個所が見られる。

安土山の北半山麓部については、旧内湖に接していた部分であり、現状変更関連での発掘調査が行われて、内湖の痕跡や遺構・遺物が確認されているが、具体的な施設の存在は確認されていない。

(6) 城下町の発掘調査

安土城下町遺跡の発掘調査は現在も住宅地となっていることもあり、小規模な発掘調査が行われているような状況である。下豊浦・上豊浦・常楽寺・慈恩寺・小中で城下町時代の遺構が確認



安土城下町遺跡調査地点分布図

数字：調査地点

.....：大字境

安土城下町遺跡の発掘調査概要

番号	字名	城下町時代の遺構	城下町以前の遺構
1	下豊浦	堀・井戸・区画溝	堀状の落込み
2	下豊浦	溝	溝
3	下豊浦	大溝	
4	下豊浦	大溝	
5	下豊浦	石垣・堀状遺構～船溜まり遺構	
6	下豊浦	石柵状土坑	溝
7	下豊浦	両側が落ち込んだ舌状地形～船着場遺構	
8	下豊浦	ピット・井戸跡・溝状遺構・土坑	
9	下豊浦	井戸	溝
10	下豊浦	井戸跡・ピット列	溝
11	下豊浦	溝	
12	下豊浦	溝～船入遺構 埴塙が出土～鑄造関連遺跡	
13	下豊浦	井戸 埴塙が出土～鑄造関連遺跡	
14	下豊浦	井戸 建物跡 炉跡	
15	下豊浦	礎石建物	堀状遺構
16	下豊浦	ピット・井戸・溝・土坑・建物跡	堀
17	上豊浦		溝
18	上豊浦	井戸・ピット	溝
19	上豊浦		ピット
20	上豊浦		柱穴跡・溝
21	常楽寺	ピット～掘立柱建物 溝	溝
22	常楽寺		溝
23	常楽寺		築地状遺構 溝～木村氏館関連
24	常楽寺		湿地帯の造成を確認
25	常楽寺	溝	
26	小中	掘立柱建物・池状遺構	
27	小中	掘立柱建物・池状遺構	

されているが、溝跡やピットなど調査対象地の性格を特徴づけるような遺構は発見されていない。一部で埴塙が見つかっており、鑄造関連の施設があったことがうかがえる。

6. 指定地の状況

(1) 史跡地および周辺の自然環境の現状

①地形

安土山は、滋賀県のほぼ中央部、琵琶湖の東側湖岸線の中央に位置する。古くから蒲生野と呼ばれてきた地域で、東近江市の愛知川、近江八幡市の日野川との間にあり、両河川の伏流水が湧き出る湧水地でもある。安土山・織山・八幡山といった湖東流紋岩を岩体とする残丘状山地に津田内湖・西の湖・大中の湖・小中の湖・伊庭内湖といった水深1mにも満たない内湖がこれらの山際に接する、琵琶湖周辺の中でも極めて変化にとんだ地形を成している。

安土山は、東側にある標高432.7mの織山の西に連なる標高198.2mの山で、比高差約110mである。山頂は対象地の南部に位置し、周辺の標高180m以上の斜面上に主郭部分が配置されている。北に延びる尾根は、八角平付近までは140mから160mの標高であるが、八角平で160mを越え突出する。さらに北側へは120m～140mの標高が尾根を形成しており、南から北に向けて緩やかに傾斜している。

北部は、東西方向に幅が200～300mと狭く、南北に長い形状をしており、東西方向では20°前後の急斜面となっている。

南部は、東西方向に幅が950mと広く、頂上を中心にして5方向に尾根が伸びている。傾斜度は尾根で15°前後、谷で20°前後の傾斜となっている。

以上のように安土山は、全体的に比較的急斜面であり、また、小さな尾根が張りだした複雑な地形となっている。なお、尾根線は、景観上重要な要素であり、特に南部の東西へ延びた尾根によって、まとまりのある空間を形成している。干拓以前は、南面を除く北側の大半が内湖に半島状に突出し、内湖の水際が山に接する形となっている。南面は、現在圃場整備により流路が変えられたが、安土川が南西から北東方向に流れ、湿地帯を形成していた。

②地質

安土山の地質は、6500万年前の中生代末白亜紀において大規模な火山活動による火山砕屑物と考えられる湖東流紋岩類のひとつである溶結凝灰岩によって形成されている。この湖東流紋岩は、鈴鹿山脈西部および湖東平野に分布している。長らく「石英斑岩」とされてきたが、溶結凝灰岩の存在が明らかにされ、湖東流紋岩と名づけられた経緯がある。

湖東流紋岩類は酸性火山岩類とこれを貫く酸性貫入岩からなり、これらは、鈴鹿山脈西縁に南北15km、東西約5kmの楕円状に分布するものを主岩体とし、平野部に残丘状山地を構成しているものを平野部岩体として区分している。両岩体は岩質的にはほぼ同じで、同源の火山活動によるものである。安土山・織山はこの残丘状山地に該当する。

③気象

安土山は、滋賀県の気候区を南北に区分する線上にあり、南部の瀬戸内海気候区と北部の日本海気候区の両方の影響を受けている。